

武蔵野市自殺対策計画（仮称）策定委員会（第2回）

会議要録

日時：平成30年10月2日（火）
午後6時30分～8時30分
場所：市役所西棟 811会議室

次 第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 武蔵野市自殺対策計画（仮称）ライフステージ別施策と市の現状・今後の取り組みについて
 - (2) 武蔵野市自殺対策計画（仮称）構成（案）について
 - (3) 武蔵野市自殺対策計画（仮称）名称、サブタイトルについて
3. その他

配付資料

- ・資料1 ライフステージ別武蔵野市の主な自殺対策関連事業
- ・資料2 武蔵野市自殺対策計画（仮称）ライフステージ別施策と市の現状・今後の取り組みについて
- ・資料3 自殺対策関連事業概要一覧
- ・資料4 武蔵野市自殺対策計画（仮称）構成（案）
- ・資料5 武蔵野市自殺対策計画（仮称）計画名称、サブタイトルについて
- ・資料6 武蔵野市自殺対策計画（仮称）策定委員会（第1回）会議要録

○当日机上配付資料○

- ・資料7 計画策定に向けたステップ
- ・参考資料 いじめなど、困ったときの相談は・・・武蔵野市立小中学校用

出席者（敬称略）

委員長・・・福島喜代子（ルーテル学院大学総合人間学部教授）
副委員長・・・澁谷智子（成蹊大学文学部現代社会学科准教授）
委員・・・大垣和子（アクセスポイント吉祥寺ケアプラン）
佐藤清佳（武蔵野市民生児童委員協議会第二地区会長）
栖雲勅子（公募市民）
谷口拓（警視庁武蔵野警察署生活安全課長）
寺田忠正（東京消防庁武蔵野消防署警防課長）
刀根武史（武蔵野市立第五中学校校長）
那須一郎（一般社団法人武蔵野市医師会理事）
日高津多子（東京都多摩府中保健所地域保健推進担当課長）
森新太郎（特定非営利活動法人ミュー統括施設長）

以上名簿順

※欠席：藤原正光（株式会社武蔵境自動車教習所地域交流室長）

事務局・・・森安健康福祉部長、一ノ関健康課長、真柳障害者福祉課長

1. 開会

○事務局より配付資料の確認

2. 議事

（1）武蔵野市自殺対策計画（仮称）ライフステージ別施策と市の現状・今後の取り組みについて

○本日の傍聴者2名

○事務局より資料1「ライフステージ別武蔵野市の主な自殺対策関連事業」、資料2「武蔵野市自殺対策計画（仮称）ライフステージ別施策と市の現状・今後の取り組みについて」の説明

委員長・・・今の事務局の資料説明で、質問や意見があればお願いしたい。

日高委員・・・妊産婦の問題を盛り込んでいただいたことに感謝する。それで説明を加筆してほしい部分がある。例えば5ページ、「自殺対策を支える人材の育成」の今後の施策の方向の（2）で、『気づき』のための人材育成の場～とあるが、この「気づき」は高リスクの方やサポートが必要な人に対するものであり、年代を問わず共通した大事なポイントである。従って、どこかに「気づき」の説明を入れておくと、それを踏まえた上で全体を読んでもらえると思う。

事務局・・・専門用語とまではいかないが、私どもが理解している言葉でも一般の方にはわかりにくい言葉は、この他にもいくつか記載があると思うので、注釈をつけるなどわかりやすく表記したい。

委員長・・・他にはどうか。

那須委員・・・全体を通じてのことだが、例えば12ページの「住民への周知・啓発」では、SNSを相談窓口として利用できるような記載があると良い。特に20代の方はSNSに

よる相談が有効なので、検討をお願いしたい。

事務局・・・今回都では、全都的にLINE相談に対応するということだ。計画策定の際の説明では個々の自治体で取り組むより、専門性の確保も含め広域で実施する方が適当という意見も出ている。確かに若い世代では電話よりSNSの方が相談しやすいということは承知しているが、なかなか一自治体でそのシステムを築くというのは、人材や専門性確保という難しい課題もあって、記載しきれないところである。

那須委員・・・周知の中で、都などで実施するものにつなげていく形であれば良いと思う。

健康福祉部長・・・補足であるが、もし私どもでSNSを実施するとすれば、それこそ“既読スルー”となった場合の相談者に与える影響も懸念される。都で実施するLINEによる相談を、市内の若者、子どもたちに周知し活用していくことの方が実現の可能性は高いと考えている。

那須委員・・・個人情報保護の問題もあるので、それで良いと思う。

委員長・・・私からも1点、「ゲートキーパー」という言葉であるが、「ゲートキーパー」は、死に傾きかけている人に対して“いのちの門番”の役割を果たす人のことを意味しており、気づきと傾聴のみでは自殺予防はできない。自殺の基礎的な知識と傾聴のみの研修では国際的にゲートキーパー養成ができる研修とは認められない。従って、既存の研修の期間が短く、大勢の方を対象にしているのであれば、それらは「自殺予防基礎研修」といった基礎研修的な意味合いの名称に変更するのが適切である。今後新規で取組んでもらう、リスクアセスメントや適切な対応方法などが含まれた研修を「ゲートキーパー研修」あるいは、「ゲートキーパー専門研修」、「ゲートキーパースキル研修」などの名称にしていきたい。

事務局・・・現在、事業として「ゲートキーパー」を付けた名称にしていることもあり、取組状況や今後の施策の方向にも書いてしまっているが、ご指摘のように、本来の「ゲートキーパー」を意味しているものではなく、「気づき」の研修ということであれば、その「気づき」の説明を加えて、名称を検討したい。

大垣委員・・・「ゲートキーパー研修」と資料に書いてあるのでここではそう呼ぶが、この研修を受けた方たちは、実際「気づき」があって、関わっていく上で研修を受けたとおりに対応しても、予想外の事態も起こり得ることもあるかと思う。こうした研修を行うのであれば、研修を受けた方たちのこころのケアの集まり、会も続けて行っていく必要がある。

事務局・・・確かにそうしたケースもあるので、こころのケアの必要性は感じている。現在、その記載がないので、時間をいただいた上で検討したい。今、計画で「ゲートキーパー研修」と呼んでいるものは、具体的な対応策を学ぶ研修ではなく、悩みを抱えているのではないかと気づいてあげてほしいといった研修レベルであることから、全体を俯瞰して考える中で再度検討していきたい。

日高委員・・・15ページの「生きることへの促進要因への支援」、施策の方向の(2)に「～若者の地域参加によってまちづくりの活性化や事業の充実を図ります」とあるが、これは市の取組状況のどの部分とリンクしているのか。

事務局・・・内容としては、14ページの「地域におけるネットワークの強化」、市の取組状況の2つめの箇条書きにある「若者サポート推進連絡会議」がそれにあたる。引きこも

りの若者を対象とした事業であり、その中で地域資源との連携を図っていき、ひいてはそれをまちづくりの活性化にもつなげていくといったことを計画で位置づけているため、ここに記載した。但し、市の取組状況からすると、なかなかそこまでは踏み込めていないが、今後の方向性には記載したということである。

刀根委員・・・ライフステージの区切り方であるが、「子ども」が就学から20歳未満、「若者」が20代・30代となっているが、18歳・19歳は「子ども」という認識が適切かどうか。18歳成人も始まるので、検討をお願いしたい。

事務局・・・実は法も変わることから、先取りして「若者」に含めてはどうかという話もあった。しかし、6年間の計画期間中、中間の見直しもあるため、実際に18歳成人が施行されたところでの切り替えを考えている。ただ、一度ライフステージで切り分けてしまうと、途中では変更がし難くなるのはご指摘のとおりである。他の委員の方からも意見も伺いたい。

副委員長・・・私は18歳から「若者」とする意見に賛成である。日本では18歳までは多くが高等学校に通う。支援のためのアクセスの点から考えると、18歳までは教育機関を通してつながることが可能だが、教育機関を卒業してしまってからでは関わり方が変わってくるのではないか。また、児童福祉法では「児童」の定義は18歳未満となっており、私自身が研究している「ヤングケアラー」でも18歳未満としたのはそうした理由である。

委員長・・・私も考え方としては同様である。18歳までは児童福祉法に係るので、各種支援の手が届きやすい。しかし、19歳になった途端にどの公的機関が担当するか定まらないまま支援が行き届かなくなる。実際それは各地で深刻な状況となっている。「18歳・19歳・20代・30代」という表記は煩雑ではあるが、施策としてきちんと考えていくという意味ではその表記の方が良いだろう。他にはどうか。

森委員・・・ライフステージ別に資料を作成されていることもあって、「再掲」の表記が多くなっている。今後、計画書を策定していく際に、その点も含め読みやすい構成に整理していく必要があると感じた。

今、私の立場から発言できるものとしては、例えば3ページの「妊産婦・乳幼児の保護者」で、市の取組状況の自立支援協議会のことが入っているが、今の自立支援協議会でのテーマとして考えると、少し接点が薄いと感じる。

また、5ページの「自殺対策を支える人材の育成」で「精神障害者支援ホームヘルパー現任研修」があげられているが、市民の方にとっては福祉サービスの支援のスキルアップと自殺予防がどうつながるのかというイメージが持ちにくいので、この整理が必要だと思う。

それと中高生に関することとして、「子ども」のライフステージでは、SOSの出し方に関する教育が書かれていて、大学での連携事業が新規で入っているのに対し、12ページの「住民への周知・啓発」には特段、中学・高校生のことが出てこないため、自殺対策、若者の自殺防止というテーマからすると、この大切な年代への取組が弱く感じる。私自身も考えなければならない問題なので、意見として発言した。最後に、人材育成のことでいくつか触れていただいているが、今年度策定され

た「健康福祉総合計画」では「地域包括ケア推進人材育成センター（仮）」のことが盛り込まれており、そこの兼ね合いもある程度考えられるので、もしイメージなどがあれば教えてほしい。

委員長・・・事務局の回答の前に1点、自殺に関しては狭い範囲で考えずに、生きることへの促進要因を支援するというような国からの指針もあって、公的機関において社会的に弱い立場や悩み事を抱えている支援の対象となられる方への事業がすべて、生きることへの促進要因にあてはまる事業となるという現状がある。そのため、どこの自治体でもそこを整理し切り分けるのがとても難しくなっていると思われる。国の策定方針に則って計画をつくろうとすれば、どうしても切り分けの難しい、重なったものになってしまう。しかし一方でそれは良いことだという思いもあって、生きることやこの地域に居住することの幸福感を感じられるような事業を展開していかなければ、自殺者減少にはつながらないので、リンクはしている。直線的には関係なさそうに思えるすべての事業について、計画で触れざるを得なくなっているのが現状である。

事務局・・・この事業がどれだけ関連しているかということについては、今、委員長からあったとおりである。事業の切り出しをする時点で各課に問い合わせをかけた際に、自殺防止を目的としたものではないものでも、少しでも関連する事業は列記したというのが現状である。但し、ライフステージ別に切り分けた際に、あまりにも計画にそぐわない場合もあるので、そこは精査をしたい。

それから、SOSの出し方は小学校と中学校で実施するものだが、ご指摘のとおり、高校生は行政とのつながりを持ちにくく、対策が難しいのが現状で、これしか記載がない状況である。今後も引き続き検討を進めたい。

健康福祉部長・・・「地域包括ケア推進人材育成センター（仮）」は今年度の「健康福祉総合計画」の大きな目玉として掲げられているもので、本年12月1日に開設する方向で準備を進めており、今後、議会にも報告する予定である。介護・看護等に関わる専門職の方々に対して、自殺防止、こころの健康に関する専門研修を設ける必要があることは重々承知しており、その必要性も感じているが、取り急ぎ立ち上げの際には、今ある研修をすべて網羅し整理していきたい。その上で必要となるものを主管課と人材育成センターで連携していくことを考えている。

委員長・・・15ページ、「生きることへの促進要因への支援」で、「参考」として広域的な施策であるハローワーク系の若者向け就労施策の記載がある。これに関連して、東京都では、地域ごとに高校生世代の引きこもりや不登校、家庭問題を抱える生徒に対して、訪問型の支援制度であるユースソーシャルワーカーを教育委員会に設置している。高校生世代の施策が何もないよりは、1つの手としてそうしたものも活用していただけると良い。

事務局・・・ハローワークは市の事業ではないため、記載するかどうか議論した経緯があるのだが、確かに計画の中で周知していくという方法も1つだと思われる。今のご意見は参考にしていきたい。

副委員長・・・教育機関を通じて、高校の学費をある程度行政が出す高等学校等就学支援金制度に関するプリントが保護者に配布されているようだ。

委員長・・・それは東京都の事業である。

健康福祉部長・・・社会福祉協議会の支援なども可能性としてはある。

委員長・・・市町村社会福祉協議会の生活福祉資金の枠内で、高校生世代になろうとしている子どもたち向けに就学・就労の際に支援が受けられる制度があるので、それは触れていただいても良いだろう。

(2) 武蔵野市自殺対策計画（仮称）構成（案）について

○事務局より資料4「武蔵野市自殺対策計画（仮称）構成（案）」の説明

委員長・・・構成案の説明があった。施策別取組の順としては、高リスクの方への主だった支援からマクロ的な事業の内容へという流れが良い。4-1) について言うと、「①地域におけるネットワークの強化」は発見であっても、その後の支援であっても継続して必要となるので、順としては一番目で良い。次に「②自殺対策を支える人材の育成」がくるのであれば、「⑤相談支援事業の充実」が続く方が流れとして良い。そして「④生きることの促進要因への支援」が相談支援と重なるような具体的な支援が継続されるので、これは4番めのまま、最後に「③住民への啓発と周知」はとても大事だが、マクロレベルの支援なので最後にもってくるのはどうか。

事務局・・・施策別取組の中に、施策ごとにライフステージを入れていくが、「再掲」は見せないのがA案、基本施策をすべて書いて、ライフステージ別でも書くのがB案、但し、それ以外でもライフステージの切り分けだけで構成するといった案も考えられるので、他にも思いつく案があれば意見としてお願いしたい。

委員長・・・B案はライフステージを別途立てて書いていくので、計画書も厚くなってしまう。A案のように例えば「①地域におけるネットワークの強化」の中でライフステージもあわせて考えを記載していくのはどうかということである。

副委員長・・・少し形にとらわれない意見として申し上げますと、従来、このような計画書は紙媒体で冊子で作られてきたが、イギリスのものではフローチャートのように必要などところにリンクを貼って飛ぶ形があり、インターネットの良い部分を活用する感じである。そうすると再掲を防ぐことができるのと、急いでいる人たちが自分に直接関わりのあるところだけキーワードで持っていくことができるという良い面がある。なぜそう考えたかと言うと、私は授業の中で厚生労働白書を参考書として使うことがあるのだが、とても厚くて、一応目次がついていて、切り出しができるが、それをさらに進化させると、必要に応じて必要な部署や必要な人が自分のケースにあてはまる場所に飛んでいくことができるようなものというのが、技術的には可能なのかなと思った。国から求められている計画をそのようなスタイルにして構わないのかわからないが、ただペーパーレスの方向性が進んでいる中で、そういう方法で再掲を防ぐというのものもあるかと思う。

委員長・・・今回東京都も章ごとに別々にいけるようにはなっているので、そういうタイプの工夫は可能だと思う。通常PDFで一括提示となりがちだが、キーワードから必要なところへリンクでいけるなどということであろう。ただ、予算的にどうするのかという話になるかもしれない。

- 事務局・・・計画は議員にも提示する必要があるので、紙冊子の計画をつくらないというスタイルは難しい。当初はその紙で策定したものをベースに、市のウェブサイトアップする方向で考えていた。ファイル上では言葉を検索して該当ページに飛ぶことは可能だと思うが、切り分けできるというところまで可能かどうか。確かに再掲が多いので、必要な部分をまとめて見られたり、切り出しができたりするとわかりやすいのは理解できる。今の時代、皆さんはこうした計画はネットで閲覧されるものなのだろうか。
- 委員長・・・ウェブサイトは何年かごとに改定されるので、紙媒体のものもあった方がよい。それがメインなのかどうかというのは、時代の流れとともに変わってきていくかとは思う。
- 健康福祉部長・・・先ほどの意見で確認だが、例えば計画書の冊子を丸ごと市のウェブサイトに掲載するというのではなく、その人が今一番必要としている部分が検索できるようにするという事か。
- 副委員長・・・都では章ごとに切り出されているということであったが、それよりもっと細かいイメージである。普段業務に携わっている方は、必要な部分を読みたいと思っても、丸ごと印刷しなければならず、それが不評らしい。私が研究している「ヤングケアラー」では、福祉や制度の谷間にいる親などのケアをする子どもたちへの対応が必要なときに、自分に関連する部分の対応の道筋が示されると良いと勧められたことがある。そのつくりとしては、最初のページから順を追って読まれることが前提となっているわけではなく、次の項目へ飛ばしたり、いきなり中間の項目から読まれることもあるだろうということが前提となっている。また、先ほど私が申し上げたフローチャートもその気になれば60ページ程度は一度に出力できるようになっている。
- 健康福祉部長・・・技術的な面、および予算の範囲内で可能かどうか検討する。
- 委員長・・・他にはどうか。
- 刀根委員・・・先ほど説明のあった資料2の構成は、ライフステージ別取組があって、各ライフステージの中で施策別の取組が示されているものと理解している。私は中学校に勤務しているが、資料2のようにライフステージ別になっていると、その立場では「子ども」の部分を読み込めば良いと判断できるので、構成としてわかりやすい。一方、このA案やB案の場合、あちらこちらをめぐって必要な部分を探さなくてはならない。個人的にはライフステージ別にそれぞれの中で施策別取組を示された方がわかりやすいのではないかと感じるがどうか。
- 健康福祉部長・・・自分が当事者、あるいは家族に当事者となる可能性のある方がいる場合、確かにライフステージで切られたところを見ると思われる。その構成の方が必要とする方には活用しやすいものになるだろう。但し、多少ページ数が増えるといった問題はあろうが、私どもとしてはいかに必要とする方に読み込んでいただくか、また、それがそばにあることで必要とされる方が安心感を得られることが大事だと思っている。今の意見は、改めて検討したい。
- 委員長・・・確かにその構成の方が見やすいかも知れない。
- 事務局・・・資料2を作成した経緯としては、事業がなかなか行き届いていないところがあっ

て、そうした弱い部分を洗い出すために作成したというのが1つ、それとライフステージ別で切ってしまうと、各基本施策のところで大枠の概要を記載できないというのが1つあって、事務局でもいろいろと悩んだのだが、そうした経緯もあってA・Bの案ではライフステージ別で切った形になっていない。しかし、せっかく意見をいただいたので、施策全体はそれとして出して、その後でライフステージ別で見た方がわかりやすい部分もあるので、検討してみたい。

健康福祉部長・・・先ほどの重点的な施策①～⑤の各概要を記載し、その次にライフステージ別の対応策というような構成にすると、いただいた意見のイメージに近いものになるかと思うので、可能かどうか検討していく。

委員長・・・ライフステージ別を前面に出すと、プロフィールで示されている中高年の方への対策が他のライフステージと比較して弱く見えてしまうのではないかと気になる。

健康福祉部長・・・第2次ベビーブームの世代の方々の無業者の方たちや、40代後半から50代になられる方々で引きこもりが継続している方々の対策は、かなり焦点となるものであるが、一方でその外側にいる、取り巻く方々、就労しながら生きづらさを感じている方々の対策は、大きな見方をすると、今の日本が抱えている最も大きな課題だと思われる。それ以外の部分は、もっと以前から課題としてあがっていて、すでに対応が進んでいる。私どもがどこまで書き込めるものかというのは甚だ自信もないし、逆に言うと、それが今の現実を表していることになろうかと思っている。議会等で内容が薄いと指摘された場合は、委員の皆さんのお知恵を拝借しながら埋めていくことができれば良いし、無理であれば、それは現実として私たち行政自身が受け止めることも必要であろうと考える。

委員長・・・その部分はぜひ何か埋まると良い。ただ、「メンタルヘルスチェック」を盛り込んでいただいたのはとても良かったと思うし、そのように基礎自治体の市町村からすると、まずは届きにくい方々にいかに工夫して届けていくかということが必要とされている。私がいつも思うのは、女性であれば乳がん検診等、基礎自治体レベルで案内等が送付されるが、男性にはそうした、アプローチするものがない。昨年、国内ではついに40代の自殺者割合が最も多くなったというニュースを聞き、かなり辛いことだと感じた。そうした方々にどう届けていくか、何かアプローチする方法があれば良いと思う。

それでは、計画の構成はライフステージ別を中心にとということで検討を進めていただきたい。

(3) 武蔵野市自殺対策計画（仮称）名称、サブタイトルについて

○事務局より資料5「武蔵野市自殺対策計画（仮称）計画名称、サブタイトルについて」の説明

委員長・・・名称、サブタイトルは順番に意見を伺っていく。

副委員長・・・「自殺総合対策」と「自殺対策」とでは意味合いが異なるのか。

事務局・・・私のイメージとなるが、「自殺総合対策」は自殺に特化するだけではなく、皆で支えていくという面もあるので、自殺に特化した事業に限らず、さまざまな事業の取組によって自殺者の減少を目指すという意味で「総合」としているのではないかと。

それを踏まえると、今回の私どもの計画では「総合」という文言は入ってこないと思われる。

- 日高委員・・・厚生労働省の「自殺総合対策大綱」は“総合対策の大綱”ということでその名称となっているのだが、東京都が「総合」としたのも、国の大綱の策定に倣って、それまでは認識がまったくなかったが、どのような分野でも自殺に関連するという考え方で、全庁的な取組として推進する必要があるということで、あえて「総合」としている。その後一貫して「総合対策」として面的な考え方が継続しており、今後も続いていくと思われる。
- 委員長・・・それでは計画の名称には「総合」を入れる方向で考えていきたい。サブタイトルについては順番に意見ををお願いしたい。
- 大垣委員・・・具体的なタイトル案はないが、サブタイトルはあった方がよい。
- 森委員・・・障害分野の話も含まれているので、障害のある方々もアクセスしやすい名称が良い。また、サブタイトルを付けるのであれば、ひらがなが多い方がよい。
- 佐藤委員・・・自殺だけではなく、地域のすべての人々の取組も含まれているので、私は計画の名称には「総合」を付けた方がよいと思う。また、サブタイトルはわかりやすく、やさしい感じのものがよい。
- 栖雲委員・・・私も「総合」が入った方がよいと思う。サブタイトルもひらがななどわかりやすいものがあるとよい。
- 1点、別件で気になったことがある。先ほど「ゲートキーパー研修」のことが出たが、私もどのような内容かと気になっていたので、「気づき」も含め、注釈のような形で入れてもらえると初めて読む人にもわかりやすくなると思う。
- 谷口委員・・・市民にはさまざまな年代の方がいらっしゃるので、誰もがわかりやすい文言が良い。私は以前、東京都に派遣の経験があつて、ウェブサイト等も制作する機会があつたが、やはり若者向けにはスマートフォンでも閲覧できるようにするなど、切り口を増やし、各世代の方が入りやすいようにする。それによってアクセス数も伸びるので、文言はシンプルで短くした方がよい。
- 寺田委員・・・各年齢層を対象としているので、誰もがわかりやすく、極力専門用語を排除した名称が良い。
- 刀根委員・・・私もサブタイトルはあった方がよいと考えている。A、B、C案は、「支えよう」、「支え合う」、「支える」と、いずれも「支え」という言葉が含まれているが、東京都では「サポート」という言葉を使っている。おそらく「サポート」と「支える」とでは言葉のニュアンスが異なると思われるが、都ではあえて「サポート」という言葉を使っているのではないか。武蔵野市では「支える」と「サポート」のどちらが適当であるかということは、今後検討をお願いしたい。
- 那須委員・・・私も「総合」という言葉は入った方がよいと思う。サブタイトルはスマートフォンなどで検索したときに、引っかかりやすい言葉があるとよい。
- 日高委員・・・私もサブタイトルはあった方がよいと思う。武蔵野の市民は、このまちに居住することに矜持のある方も多いと思う。そうすると、B案「こころ・いのち 支え合う まち むさしの」のように“武蔵野”という言葉が入ったサブタイトルが良い。それと東京都の計画で「サポート」を使っているということだが、都の計画でも当

然、支え合いや生きる支援は盛り込まれているので、特に議論の上で決めたものではなく、カタカナの方がすんなりと入ってくるイメージがあって使っているのだと思われる。

副委員長・・・例えば、サブタイトルは「一人ひとりの生きやすさを守るために」というように「サポート」、「支える」という言葉を使わないのはどうか。支え合うことを受け入れられる状態にあるかどうかは判断が難しいと思う。自殺は集団のケースもないわけではないが、多くはひとりである。それで「一人ひとり」というように、寄り添うような文言を入れたらどうかと。また、「こころ」、「いのち」、「支え合い」という言葉は多用され過ぎていると感じている。武蔵野市ではいろいろな意味で単身世帯も多いので、そういう方たちも含めた「生きやすさ」としてみるのはどうかと思い、提案させていただいた。

委員長・・・皆さんからさまざまな意見をいただいた。これらを踏まえて事務局で検討をお願いしたい。

3. その他

委員長・・・その他、事務局から連絡事項等があればお願いしたい。

事務局・・・本日も闊達な議論に感謝する。いただいた意見を参考に次回までに中間まとめ(案)を作成したい。本日も意見シートを配布しているので、タイトルをはじめ、計画の中身について思いついたことなどがあれば遠慮なく記入していただきたい。

次回は11月8日(木)、18時30分からとなるが、場所は西棟の802会議室になる。

また、皆さんには第4回の日程調整もいただいております。第4回は1月29日(火)、18時30分から。場所はこの811会議室となる。

次回は中間のまとめ(案)の議論をお願いすることになる。資料7「計画策定に向けたステップ」をご覧くださいと、第3回では何を議論するかということも書いてある。現在まだ議論をしていない計画目標値や評価指標の検討である。計画の名称は本日議論をいただいたので、次回までに検討して、それを入れた形で中間まとめ(案)を作成する。それをもとにパブリック・コメントにかけ、第4回で取りまとめという流れとなるので、引き続きよろしくをお願いしたい。

以上